

環境王国「いわて」を担う
いわて第2クリーンセンター

環境活動レポート 2016

(平成27年度実績報告)

対象期間 2015年4月1日～2016年3月31日



2016年1月6日 正門前にて

いわて県北クリーン株式会社

代表取締役 松本 榮市

発行日 2016年6月1日

もくじ

- 1. 会社概要・・・・・・・・・・・・ P2
- 2. 事業概要・・・・・・・・・・・・ P3
- 3. 施設概要と特徴・・・・・・・・ P4
- 4. 許可品目・・・・・・・・・・・・ P6
- 5. 環境方針・・・・・・・・・・・・ P7
- 6. 組織図・・・・・・・・・・・・ P8
- 7. 役割と責任・権限・・・・・・・・ P8
- 8. 環境目標と活動実績・・・・・・・・ P9
- 9. 環境活動の結果と評価・・・・・・・・ P9
- 10. 代表者による全体の評価と見直し・・・ P14
- 11. 環境保全活動・・・・・・・・・・・・ P15
- 12. 資格・免許・認定・・・・・・・・ P19

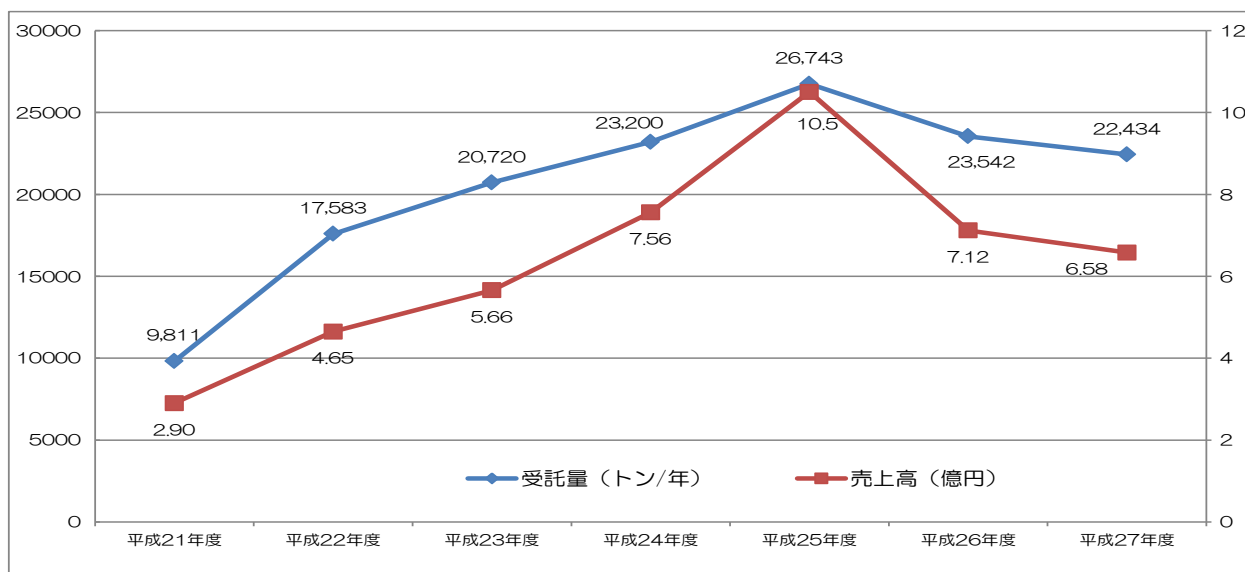


1. 会社概要

会社名 : いわて県北クリーン株式会社
 施設名 : いわて第2クリーンセンター
 所在地 : 〒 028-6505 岩手県九戸郡九戸村大字江刺家第 20 地割 48 番地 34
 代表者 : 代表取締役 松本 榮市
 業務開始 : 平成 21 年 4 月 (設立:平成 18 年 4 月)
 資本金 : 9,000 万円
 株主 : 株式会社タクマ ・ 株式会社タクマテクノス ・ 西松建設株式会社
 事業内容 : 産業廃棄物の中間処理 ・ 一般廃棄物の中間処理
 従業員数 : 31 名 (平成 28 年 4 月 1 日現在)
 事業面積 : 約 36,000 m²
 環境管理責任者 : 村田 英敏 ・ コミュニケーション窓口 : 村田 英敏
 TEL 0195-42-4085 FAX 0195-42-4550
 Mail info@iwate2cln.co.jp URL <http://www.iwate2cln.co.jp>

会社の沿革：

- 平成18年 4月12日：株式会社タクマ、株式会社タクマテクノス、西松建設株式会社の出資により設立
- 平成18年10月30日：環境大臣による廃棄物処理センター指定
- 平成19年 3月29日：産業廃棄物処理施設の設置許可取得
- 平成21年 1月 7日：産業廃棄物処理施設の処分業許可取得（許可番号：00329146787）
- 平成21年 1月 7日：特別管理産業廃棄物処理施設の処分業許可取得（許可番号：00379146787）
- 平成21年 4月 1日：事業開始
- 平成21年 6月 8日：一般廃棄物処理施設の処分業許可取得
- 平成21年 6月30日：基準適合産業廃棄物処理業者認定（中間処理★★取得）
- 平成22年 2月15日：エコアクション21取得
- 平成24年 8月30日：いわて地球環境にやさしい事業所認定 ★★★★★取得
- 平成26年 1月 7日：産業廃棄物処理施設の処分業許可更新取得（有効期限：平成31年1月6日）
- 平成26年 1月 7日：特別管理産業廃棄物処理施設の処分業許可更新取得（有効期限：平成31年1月6日）
- 平成26年 7月23日：産業廃棄物処理施設設置許可取得（破碎中間処理施設1設置）
- 平成26年11月11日：産業廃棄物処分業の事業範囲の変更（破碎中間処理追加）
- 平成27年 5月15日：産業廃棄物処理施設設置許可取得（破碎中間処理施設2設置）
- 平成27年 5月28日：産業廃棄物処分業の事業範囲の変更（破碎中間処理追加）



2. 事業概要

本事業は、岩手県を発注者とするPFI事業で運営を行っています。岩手県の「自県内処理の推進」及び「資源循環型社会の形成」に基づき、多種多様な廃棄物を適正に処理するための「焼却設備」・「溶融設備」があり、あらゆる性状に対応が可能となっています。

処理施設は万全の環境保全対策が施された処理システムにより、排ガス・燃え殻及びばいじん等の処理も、安定的かつ安心な施設となっています。

溶融処理により発生するばいじんは、可能な限り山元還元（有価金属として再利用）により再資源化するとともに、溶融スラグは有価物として再資源化を図ります。

3. 施設概要と特徴

施設名称 : いわて第2クリーンセンター
 設置規模 : ローターキルン&ストーカ炉 87.9 t/日 ×1 基
 燃料式表面溶融炉 13t/日 ×1 基
 破碎施設 ×2 施設
 ボイラ型式 : 三胴式廃熱ボイラ
 最高使用圧力 : 3.30 MPa
 常用使用圧力 : 2.90 MPa
 蒸気温度 : 241℃
 最大蒸発量 : 10.2 t/h
 タービン形式 : 復水タービン
 発電出力 : 840 kW



排ガス規制値

種類	法規制値	自主管理値
ダイオキシン類(ng-TEQ/m ³ N)	1.0	0.1
SO _x (ppm 以下)	3,761 (K 値 17.5)	50 (K 値 0.25)
NO _x (ppm 以下)	250	100
塩化水素(ppm 以下)	430	80
ばいじん(g/m ³ N 以下)	0.08	0.02

多種多様な廃棄物（特管物を含む）の適正処理

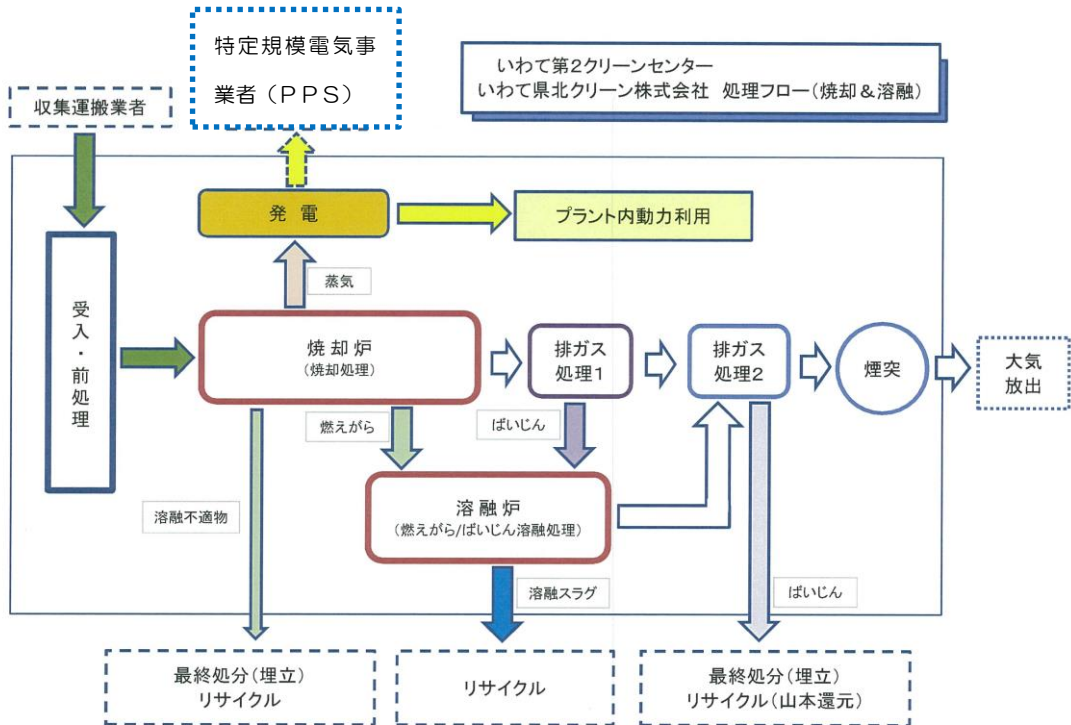
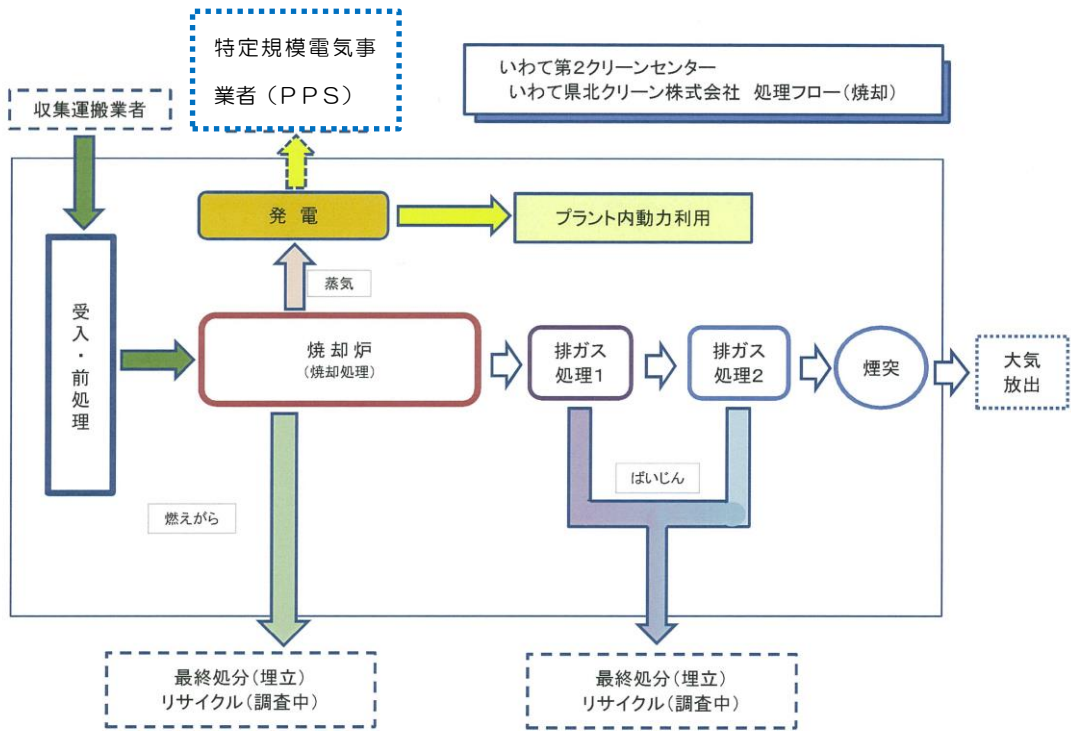
- ◎ 高温処理による完全燃焼と無害化
 - ・ 焼却炉内温度 850℃以上（自主管理値） ※法規制値 800℃以上
 - ・ 溶融炉内温度 1300℃以上

省エネ・資源リサイクルの促進

- ◎ 蒸気タービン発電機 Max840 kW（発電設備） ※廃熱ボイラ蒸気利用
施設内で使用する電力の全量供給及び余剰電力の売電
- ◎ 白煙低減用排ガス加熱器（煙突からの蒸気白煙を低減させる設備） ※廃熱ボイラ蒸気利用
排ガス中の水蒸気によって煙突から出る白煙を低減
- ◎ 溶融スラグを路盤材・建設資材等に利用することでの資源リサイクル
- ◎ 焼却灰・溶融飛灰は精錬会社にて有効的に鉱物類を回収することでの資源循環の形成

周辺環境への配慮

- ◎ 排ガスは環境にやさしい管理値を設け、地域環境保全に配慮
- ◎ クローズドシステムによりプラント排水及び生活排水は施設内において再利用し、場外へは無放流
- ◎ 騒音・振動の発生を抑制した設備の導入及び防音材設置や振動対策基礎の導入
- ◎ 臭気を外部に放出させない換気システム



4. 許可品目

焼却施設

○産業廃棄物

- ① 廃プラスチック類
- ② 廃油
- ③ 廃酸
- ④ 廃アルカリ
- ⑤ 木くず
- ⑥ 紙くず
- ⑦ 繊維くず
- ⑧ 汚泥
- ⑨ 動植物性残渣
- ⑩ 動物系固形不要物
- ⑪ ゴムくず
- ⑫ 金属くず（他の性状と一体となり分別できないものに限る。）
- ⑬ ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（医療系廃棄物に限る。）
- ⑭ 燃え殻
- ⑮ 動物のふん尿

○特別管理産業廃棄物

- ① 廃油
- ② 廃酸
- ③ 廃アルカリ
- ④ 感染性産業廃棄物
- ⑤ 汚泥
- ⑥ 燃え殻

熔融施設

○産業廃棄物 ① 廃プラスチック類 ② 汚泥

○特別管理産業廃棄物 ① 汚泥

破碎施設

○産業廃棄物

- ① 廃プラスチック類
- ② 木くず
- ③ 紙くず
- ④ 繊維くず
- ⑤ ゴムくず
- ⑥ 金属くず
- ⑦ ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず及び陶磁器くず
- ⑧ がれき類



環境方針

《基本理念》

いわて県北クリーン株式会社は、積極的に熱利用を行い、廃棄物の未利用エネルギーを効率的に利用することで CO₂ を削減し、地球温暖化の防止や循環型社会の形成に貢献します。そのためにエコアクション 21 のシステムを導入し環境活動を展開します。

《行動指針》

1. 環境にやさしい事業運営に努めると共に、地域社会に貢献する企業をめざし活動に取り組みます。
2. 事業活動に係わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理項目として取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素の排出量削減に努めます。
 - (2) 廃棄物の削減及びリサイクルに努めます。
 - (3) 使用する水の抑制に努めます。
 - (4) グリーン購入の推進に努めます。
 - (5) 化学物質の削減に努めます。
3. 事業活動に関連した環境関連法規を遵守します。
4. 地域との連携を密にし、環境保全活動に積極的に参加します。
5. 環境方針は社内に掲示し、教育及び会議を通じ社員に理解を深め、積極的に取り組みます。

制定：平成 22 年 5 月 1 日

改定：平成 27 年 6 月 9 日

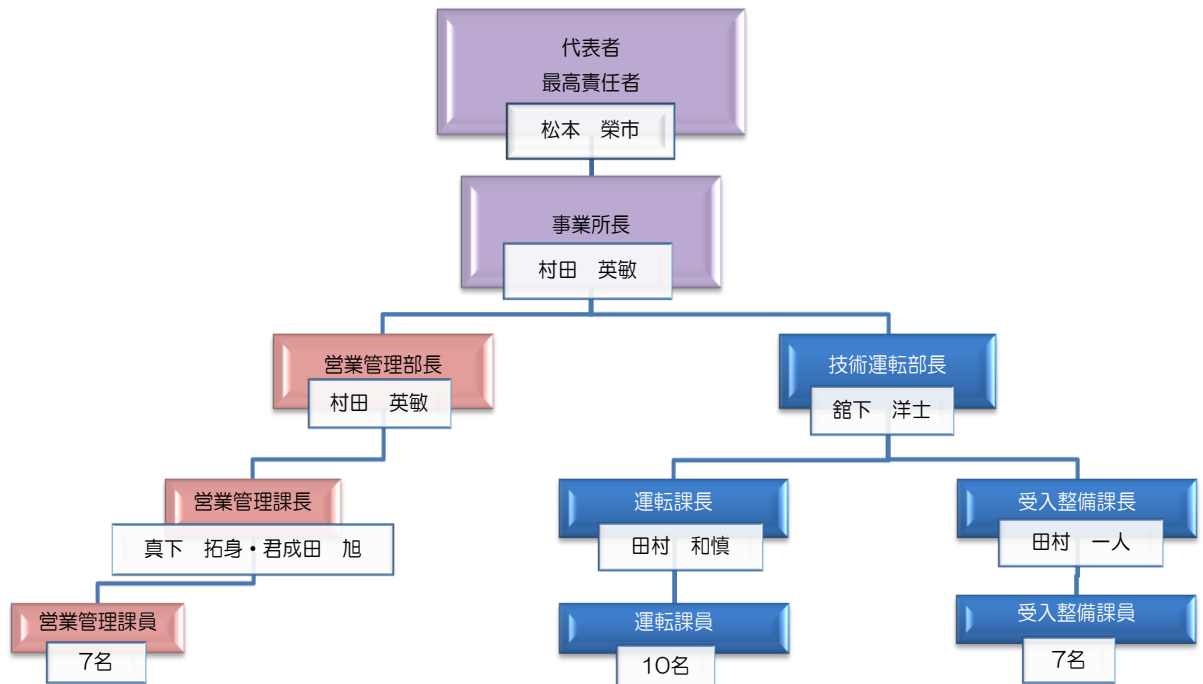
いわて第 2 クリーンセンター

いわて県北クリーン株式会社

代表取締役 松本 榮市



6. 組織図



7. 役割と責任・権限

役割	担当者	役割と責任・権限
代表者	代表取締役	①環境管理責任者の任命 ②環境管理責任者から報告を受けて全体の見直し ③取組に対する資源を用意
環境管理責任者	事業所長	①代表者に代わって環境管理システムを構築し、継続的に運営 ②関連法規の把握をして代表者に情報を報告
E A21 事務局	技術運転部長	①環境管理責任者に代わってデータ収集 ②各部署へE A21の達成目標を周知 ③各部署の実施状況を把握し、環境管理責任者へ報告 ④必要な教育訓練の計画及び実施
防災責任者（防火管理者）	事業所長	①防災計画の立案 ②火元責任者の選任
安全運転管理者	営業管理部長	①安全運転のために必要な教育・訓練の実施 ②エコドライブの積極的な推進
各部門長	営業管理部長 技術運転部長	①各取組み項目の把握及び実施状況の確認 ②各部署へ取組み項目の達成状況を周知 ③必要に応じて各取組み項目の是正及びその指示 ④環境配慮・緊急事態に関する予防措置
社員	全社員	①各実施項目に対して積極的に取組むように努める ②環境保全活動への積極的な参加

8. 環境目標と活動実績

各年度目標値に対する達成度

■ 目標達成 ■ 目標未達

※達成判定は目標値±10%範囲とする

		単 位	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
1	受電電力量の削減	kWh/t	165.0	81.6	61.3	23.3	9.1	5.9	4.3
2	重油使用量の削減	L/t	168	4.0	3.1	1.2	0.95	1.07	0.55
3	軽油使用量の削減	L/t	1.70	1.74	1.77	1.85	1.97	2.30	2.26
4	ガソリン使用量の削減	L/t	—	—	—	0.43	0.36	0.36	0.33
5	水資源投入量の削減	m ³ /t	0.85	0.83	0.63	0.75	0.63	0.57	0.72
6	CO ₂ 排出量の削減	kg-CO ₂ /t	1130	57.4	44.0	20.3	13.5	13.0	10.5
7	発電電力量の向上	kWh/t	189.0	157.1	119.2	152.0	164.4	209.6	217.4
8	廃棄物受託量の増加	t/年	9,811	17,583	20,723	23,168	26,743	21,542	22,434
9	消石灰使用量の削減	kg/t	32.9	35.9	27.0	25.5	27.8	25.6	29.4
10	グリーン購入率の向上	%/年	—	—	—	73.1	63.3	71.5	86.0

9. 環境活動の結果と評価

「 受電電力量の削減 」

平成 27 年度 目標 5.7kWh/t

平成 27 年度 実績 4.3kWh/t

達成率 125.1%

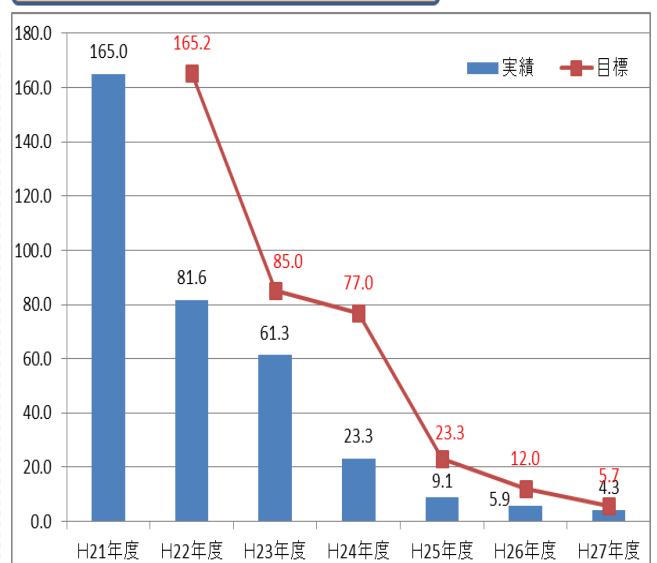
取組内容

安定的な発電により受電電力を削減できるように投入ゴミの熱量を均一化する

活動結果と評価

安定的な焼却炉の運転により発電ができた。

受電電力量の削減 (kWh/t)



<平成 28 年度 目標 5.6kWh/t >

取組内容

運転班と受入班の連携を密にし、プラント施設の状態把握と、投入ゴミのカロリーバランスを最適化につとめ、発電量を安定化することにより、受電量を削減する。

「 重油使用量の削減 」

平成 27 年度 目標 0.70L/t
 平成 27 年度 実績 0.55L/t
 達成率 121.4%

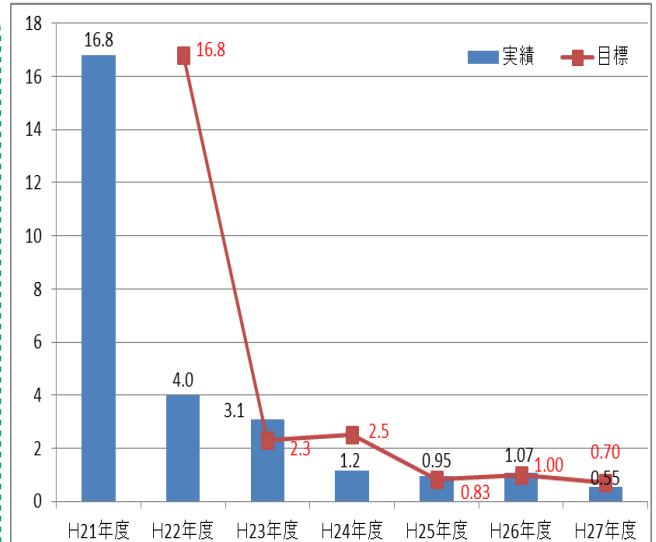
取組内容

炉内温度低下時は廃油を有効的に処理することで、助燃用の重油使用量を削減する

活動結果と評価

炉温低下時など、有効的に廃油を使うことで削減できた。

重油使用量の削減 (L/t)



<平成 28 年度 目標 0.69L/t >

取組内容

立上げ下げ回数の削減、ドラム缶炉使用時等、必要かつ最低限の重油使用量となるよう全員が努める。

「 軽油使用量の削減 」

平成 27 年度 目標 2.20L/t
 平成 27 年度 実績 2.26L/t
 達成率 97.2%

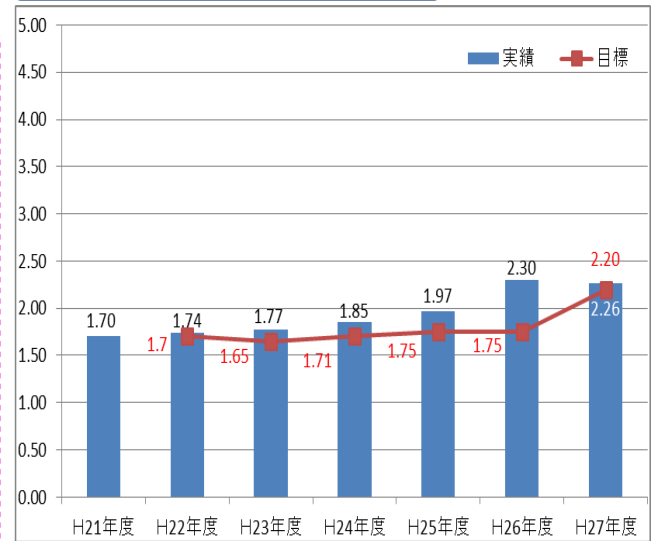
取組内容

- ①作業効率を上げて重機使用時間を短縮する。
- ②小まめな点検清掃で重機を適正に保ち燃費を向上させる。

活動結果と評価

作業効率を上げることで、重機の使用時間を削減できた。

軽油使用量の削減 (L/t)



<平成 28 年度 目標 2.15L/t >

取組内容

- ・無駄なアイドルストップ。
- ・空ぶかし運転禁止と、適正な暖機運転の実施。

「 ガソリン使用量の削減 」

平成 27 年度 目標 0.36L / t

平成 27 年度 実績 0.33L / t

達成率 107.0%

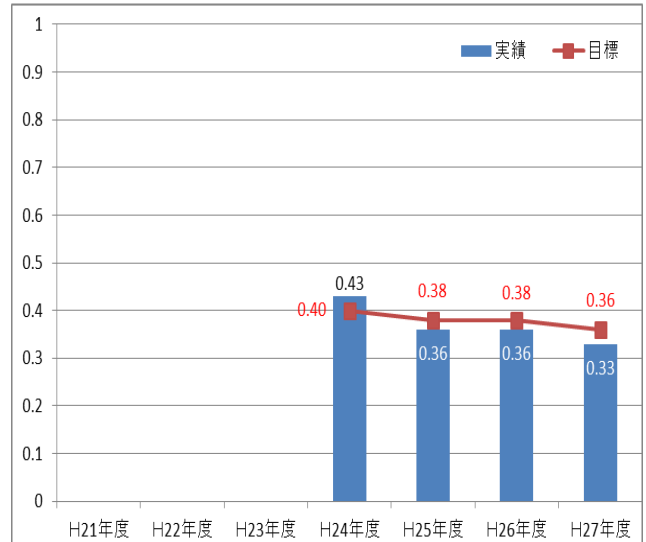
取組内容

計画的な運行計画により、無理な運転を避けたエコドライブ運転に努める。

活動結果と評価

中間結果をうけ、各自運転の見直しをしたことにより、目標達成できた。

ガソリン使用量の削減 (L / t)



<平成 28 年度 目標 0.35L / t >

取組内容

時間に余裕を持って行動し、エコドライブを心がける。

「 水資源投入量の削減 」

平成 27 年度 目標 0.55L / t

平成 27 年度 実績 0.72L / t

達成率 68.8%

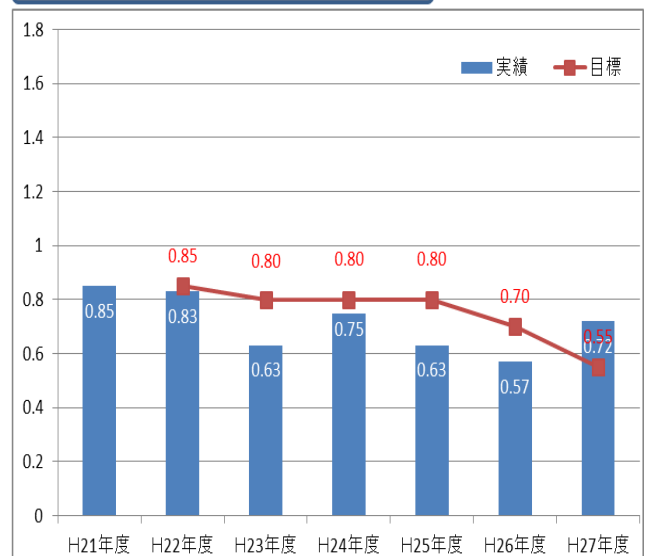
取組内容

調整池水の利用継続と水槽レベル監視強化を行った。

活動結果と評価

現状の設備では上水の使用量削減は概ね上限に達したと思われる。引き続き取組を継続するとともに新たな省エネルギー設備を検討する。

水資源投入量の削減 (m³ / t)



<平成 28 年度 目標 0.53L / t >

取組内容

可能な限り調整池水・雨水を利用する。
各水槽レベルの監視、プラント排水ポンプ稼働状況確認の徹底。

「 温室効果ガスの削減 」

平成 27 年度 目標 12.5k g-CO₂/t
 平成 27 年度 実績 10.5k g-CO₂/t
 達成率 115.7%

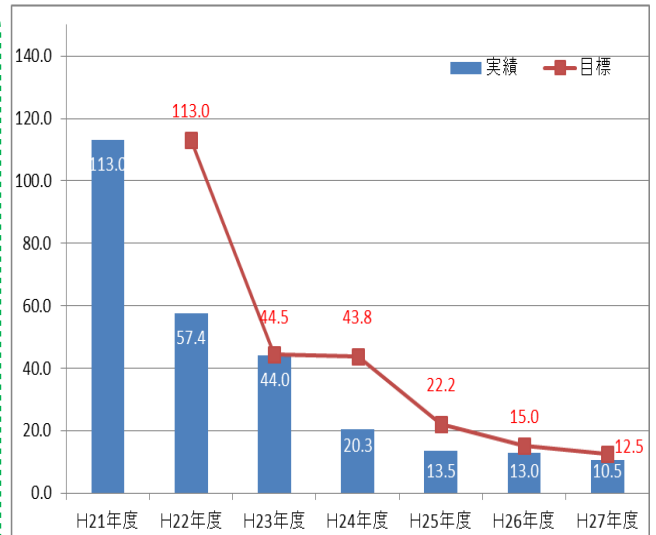
取組内容

重油や軽油使用量の削減と、受電電力量の削減をする。

活動結果と評価

A 重油の使用量を削減できたこと目標達成につながった。

CO₂排出量の削減 (k g-CO₂/t)



<平成 28 年度 目標 12.5k g-CO₂/t >

取組内容

重油の削減、軽油使用量の削減、発電量の増加と受電電力量の削減

「 発電電力量の向上 」

平成 27 年度 目標 220.0kWh/t
 平成 27 年度 実績 217.4kWh/t
 達成率 98.8%

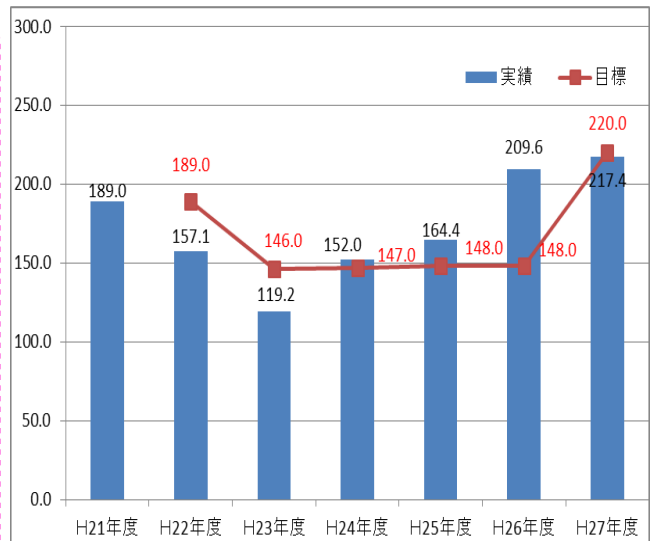
取組内容

廃棄物の性状を均一化させるためのゴミ攪拌を定期的に行う

活動結果と評価

年間実施計画の取組が達成の要因となった。

発電電力量の向上 (kWh/t)



<平成 28 年度 目標 225.0kWh/t >

取組内容

運転班と受入班の連携を密にし、プラント施設の状態把握と、投入ゴミのカロリーバランスを最適化につとめ、発電量上げる。

「 廃棄物受託量の増加 」

平成 27 年度 目標 23,900 t/年
 平成 27 年度 実績 22,434 t/年
 達成率 93.9%

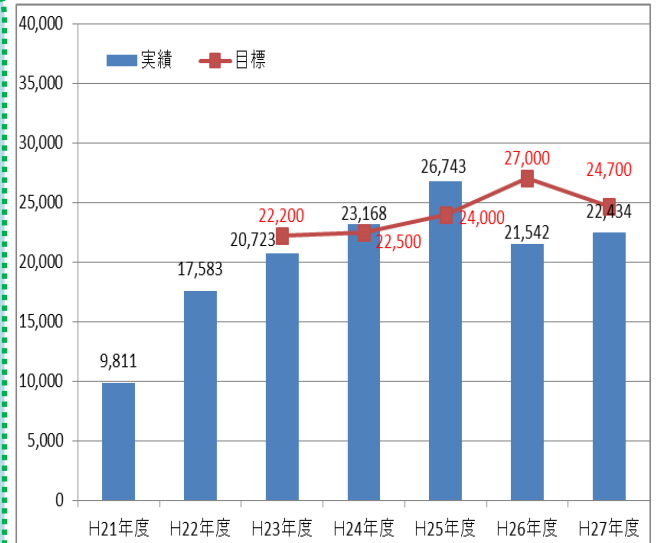
取組内容

継続顧客への営業と新規顧客獲得へ注力する。

活動結果と評価

継続顧客に重ねて搬入依頼をし、新規顧客をもらさず受託するよう努めた。大型案件がなかったことを踏まえれば、十分評価できる結果となった。

廃棄物受託量の増加 (t/年)



<平成 28 年度 目標 24,000 t/年>

取組内容

引き続き継続顧客への営業と新規顧客獲得へ注力する。

「 消石灰使用量の削減 」

平成 27 年度 目標 25.0 kg/t
 平成 27 年度 実績 29.4 kg/t
 達成率 82.2%

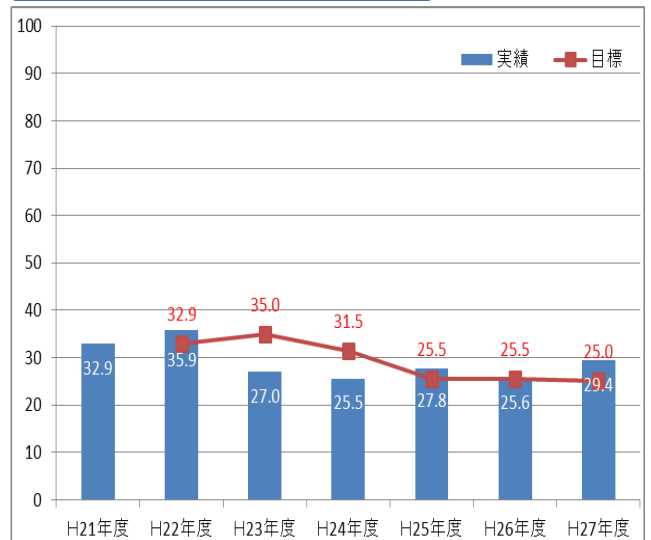
取組内容

消石灰設定値の小さな変更により更なる削減を行う。

活動結果と評価

情報の共有を前期以上に密にとる必要がある。削減に対する意識を高め、周知し来期の目標とする。

消石灰使用量の削減 (kg/t)



<平成 28 年度 目標 24.5 kg/t>

取組内容

営業担当・受入班との情報共有、均一な攪拌で政情を安定化させ、使用量を削減する。

「グリーン購入率の向上」

平成 27 年度 目標 72.0%/年

平成 27 年度 実績 86.0%/年

達成率 119.4%

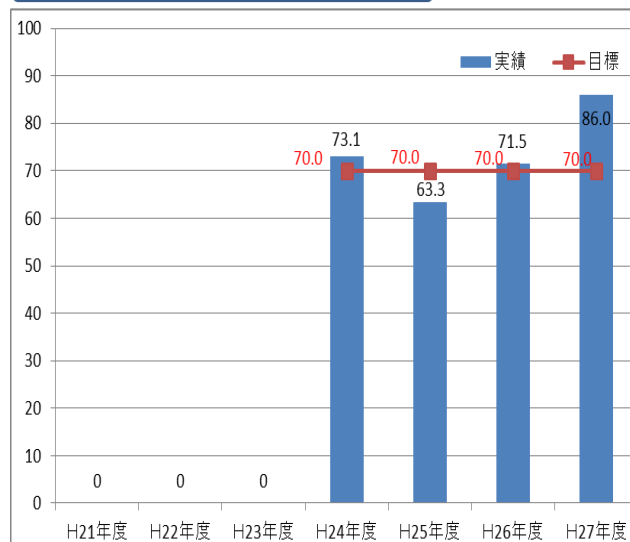
取組内容

グリーン商品とエコリサイクル商品を積極的に購入する。

活動結果と評価

グリーン商品をピックアップし購入に努めた。

グリーン購入率の向上 (%/年)



<平成 28 年度 目標 74.0%/年>

取組内容

購入選定にあたり、グリーン商品とエコリサイクル商品を優先する。

10. 代表者による全体の評価と見直し

1. 結果に対する評価

平成 26 年度は 2 項目で未達となったが、活動内容については良く実施してくれたと判断する。ほとんどの項目が経費に直結する内容であり、継続して取り組んでもらいたい。

2. 全体の見直し

全体的に達成項目の件数が多くなっているが、各項目で見るとそれぞれの目標設定値が適切で無い部分があると感じる。もう一度内容を整理して H27 年度の目標値を設定すること。

3. 次期取組みへの指示

全体的に焼却炉の連続運転がカギとなっている。そのためにはトラブルの多い設備の改善が急務である。具体的には灰出系のコンベヤが経年劣化していることでのトラブルが多いため、優先的に改善すること。

11. 環境保全活動

イベント関係

実施日	実施項目	実施内容
4月25日	クリーン九戸行動日	九戸村沿道のゴミ拾い活動
6月13日	草刈り作業	施設内のほか、周辺の草刈り作業
6月25日	小学校見学	九戸村立戸田小学校の4年生見学
7月2日	小学校見学	九戸存立江刺家小学校の4年生見学
10月26日	不法投棄パトロール	県北振興局主催不法投棄パトロールへ参加

セミナー・講習会

実施日	実施項目	実施内容
6月26日	エコエコセミナー	エコ活動の内容紹介
7月16日	ボイラ・タービン主任者会議	ボイラ・タービンの管理者会議
8月19~20日	産業廃棄物処理事務者研修会	産業廃棄物処理についての基礎コース
10月2日	危険物保安講習会	乙4類危険物に関する3年毎の定期講習
10月21日	エコドライブ	九戸役場にてエコドライブについての机上と実技
10月29日	フロン排出抑制法セミナー	フロン排出抑制法改訂について
11月6日	エコスタッフ養成セミナー	エコスタッフ養成講座（講師として参加）
11月11日	下請取引適正化推進講習会	下請取引についての内容説明
11月13日	環境コミュニケーションセミナー	環境負荷低減活動について
11月25日	環境報告書作成研修会	環境活動レポートの作成マニュアル
11月27日	電気安全セミナー	電気保安協会によるセミナー
12月8日	産業廃棄物排出者事業者を対象とした ステップアップ研修会	廃棄物処理法の基礎や産業廃棄物管理の実務、各付け制度について
2月23日	安全衛生研修会	安全衛生規定の作成とリスクアセスメントの必要性

教育・訓練

実施日	実施項目	実施内容
7月24日	避難訓練・消火訓練	二戸消防署九戸分署による指導
11月27日	健康教育	九戸村保健衛生班の保健師による健康教育
11月27日	ダイオキシン類特別教育	(株)タクマテクノス維持管理部による特別教育
12月23日	拡散防止訓練	廃棄物の漏洩を想定した訓練
3月28日	フォークリフト安全講習	トヨタL&Fによる講習

「クリーン九戸行動日 参加」

4月25日に行われた九戸村主催の「クリーン九戸行動日」に、社員の家族も合わせて17名が参加し、村道のゴミ拾いを実施しました。平成21年の施設開業の翌年から毎年参加しており、今後も環境保全活動の一環として毎年参加したいと思っています。



「 岩手県環境生活部 見学 」

6月10日に岩手県環境生活部から22名の方が来場し、施設見学を行いました。弊社の施設見学が初めての方も多く、「大きい施設で驚いた」「自動化が進んだ最新鋭の設備であることが解った」などのコメントをいただきました。また、県境不法投棄廃棄物の処理や東日本大震災のガレキ処理を行った実績なども報告させていただきました。



「 小 学 校 見 学 」

6月25日に九戸村立戸田小学校4年生13名の見学がありました。「ゴミを分別するコツはなんですか?」「ゴミを焼却するためにゴミを出す人に守ってもらいたい事はなんですか?」など、ゴミに関する様々な質問があり、感心の大きさを大変驚きました。施設内の見学では沢山の機械設備で綺麗になったガスを煙突から放出していることや、ゴミを燃やした時の熱を利用して電気を作っていることなど、単にゴミを焼却するだけでなく、熱回収によるリサイクル(サーマルリサイクル)にもとても驚いていました。



「平成27年度 避難訓練・消火訓練」

7月24日に、二戸消防署九戸分署様の指導のもと、廃棄物のストック場所から出火したとの想定で避難訓練を行いました。火災発見時の連絡や初期消火訓練及び避難開始の連絡・場内放送・119番への訓練通報も行いました。また、水消火器を使用しての初期消火訓練を参加者全員実施しました。今回の避難訓練では、火災発見時の現場での周知不足の指摘がありましたので、次回の訓練では指摘事項を改善し、また、火災場所・避難場所を変えて計画したいと考えております。



「平成27年度 環境報告会」

平成28年2月26日に環境報告会（事業報告会）を開催致しました。地域住民様を始め、排出事業者様・環境関連企業様や、岩手県・九戸村等の行政職員の方々など、多くの方にご出席いただきました。日頃より行っている環境活動の取組みとその成果などの紹介や、環境関連のセミナーや講習会への積極的参加など、環境関連の取組みを紹介させていただきました。

また、場内見学では廃棄物の搬入から焼却処理・灰の搬出までの一連の流れを紹介しながら見学しました。廃棄物には固形状・液状・油状など、様々な性状の物があり、その性状によって処理方法が違うことなども紹介させていただきました。



「 拡散防止訓練 」

12月23日に平成27年度の廃棄物の漏洩を想定した訓練を実施しました。今回も前年度と同じ内容で行い、万が一の場合の初期対応などを習慣付ける訓練ができました。今後も非常事態に備えて素早い対応ができる様に訓練を継続していきたいと思います。



「 九戸村 産業文化まつりへ出展 」

10月31日～11月1日の2日間行われた「九戸村産業文化まつり」に出展しました。今回で4回目の出展で、例年同様に施設の説明や日頃の業務内容や環境活動・村内の小学校の見学対応の紹介などを行いました。また、恒例の環境関連クイズも行い、沢山の地域の方々に立ち寄っていただきました。



「 ダイオキシン類特別教育 」

11月27日に外部講師によりダイオキシン類特別教育を行いました。「ダイオキシン類は200以上の種類の中で数種類しか毒性がない」「ごみの焼却だけから発生するのではなく、身近な出来事からも発生している」ことなど、ダイオキシン類の危険性や人体への影響を再確認し、健康上の問題が生じる危険性もありますので、作業方法及び保護具の使用方法を守り安全作業に努める大切さを痛感いたしました。



12. 資格・免許・認定

	資 格 ・ 取 得	取得者数
E	エコスタッフ講習	1名
C	環境社会検定試験（ECO検定）	2名
O	エコドライブ講習	1名
管 理 士	産業廃棄物処理施設技術管理士	2名
	一般廃棄物処理施設技術管理士	3名
	破砕・リサイクル施設技術管理士	1名
	2級土木施工管理士	1名
廃 棄 物 関 係	特別管理産業廃棄物管理責任者講習	3名
	産業廃棄物処理業に関する講習（処分業課程）	1名
	特別管理産業廃棄物処理業に関する講習（処分業課程）	1名
	特別管理産業廃棄物処分業に関する講習（収集・運搬業課程）	2名
	産業廃棄物処理実務者研修会基礎コース	6名
車 両	第一種普通自動車免許	31名
	第一種大型自動車免許	6名
	大型特殊自動車免許	7名
車 両 整 備	ガソリン自動車整備士2級	1名
	ガソリン自動車整備士3級	2名
	ディーゼル自動車整備士3級	1名
	シャシ整備士3級	1名
ボ イ ラ	第2種ボイラ・タービン主任技術者	1名
	1級ボイラ技士	10名
	2級ボイラ技士	11名
	ボイラ整備士	2名
電 気	ボイラ取扱従事者安全衛生教育	1名
	第二種電気工事士	3名
	低圧電気取扱者教育	1名

12. 資格・免許・認定

	資 格 ・ 取 得	取得者数
危 険 物	甲種防火管理者	2名
	乙種第4類危険物取扱者	15名
	乙種第5類危険物取扱者	1名
技 能 講 習 ・ ク レ ン	車両系建設機械（整地等）	21名
	車両系建設機械（解体）※特例講習含む	21名
	フォークリフト技能講習	22名
	玉掛け技能講習	9名
	ガス溶接技能講習	20名
	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習	19名
	有機溶剤作業主任者技能講習	6名
	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習	5名
	足場組立作業主任講習	1名
	コンクリート解体技能講習	1名
	小型移動式クレーン運転技能講習	4名
	床上操作式クレーン運転技能講習	2名
特 別 教 育	クレーン運転業務特別教育	25名
	ダイオキシン類ばく露防止特別教育	1名
	ダイオキシン類特別教育	25名
	安全衛生推進者養成講習	3名
	安全衛生推進者能力向上教育	1名
	アーク溶接特別教育	15名
	粉じん作業特別教育	1名
	ローラー運転業務に係る特別教育	1名
	チェーンソー伐木業務特別教育	1名
	普通救急救命講習	22名
	自由研削用といし作業特別教育	5名
刈払い機作業安全衛生教育	2名	

【 所在地案内図 】



いわて県北クリーン株式会社
(Iwate-Kenpoku Clean Co.,Ltd.)